



ESGアクション21

# 環境経営レポート

2024年版（対象期間：2024年1月～12月）

有限会社 ドリームズファーム

2025年1月25日作成

# 概要

## 1. Plan

1. 組織の概要
2. 対象範囲
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標
5. 環境経営計画
6. SDGsの取り組み

## 2. Do

7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容  
(実施体制を含む)

## 3. Check

- 8-1. 環境経営目標及び計画の実施・取組結果と評価
- 8-2. 環境上の緊急事態対応訓練の取組結果と評価
- 8-3. 次年度の目標及び計画
- 9-1. 環境関連法規などの遵守状況及び評価の結果  
違反、訴訟などの有無

## 4. Act

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示



# 1. 組織の概要

## 1) 事業者名及び代表者氏名

有限会社ドリームズファーム  
代表取締役 東海林秀宣

## 2) 所在地

本社・工場  
〒997-1125 山形県鶴岡市馬町字枇杷川原67番地  
TEL : 0235-33-4586 / FAX : 0235-33-0415

農産事業部  
〒997-1125 山形県鶴岡市大山字若柳320番地  
TEL : 0235-33-4611 / FAX : 0235-33-4611

## 3) 事業の規模 (2024年12月31日現在)

製品売上高 : 1,800,000千円

従業員数 : 51名

本社・工場 敷地面積 1250 m<sup>2</sup>

農産事業部 作付面積 35ha

## 4) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 代表取締役 東海林秀宣

環境担当事務局 : 総務・管理部 新堀寛之  
連絡先 TEL : 0235-33-4586

## 5) 事業活動の内容

農産物の生産及び販売、米の販売業務、農作業の請負業を行っています。現在は、約35ヘクタールの農地で米の栽培を行っています。1996年より米の付加価値を高めた事業として米飯事業を開始し、無菌米飯の製造を開始しています。また、更なる製造数増加のため福島県相馬市に新工場を建設予定、2026年からの稼働を目指しています。

## 6) 会社沿革・その他事業の沿革

・1991年に設立された農業法人で、農産物の生産及び販売、米の販売業務、農作業の請負業を行っています。現在は、約30ヘクタールの農地で米の栽培を行っています。1996年より米の付加価値を高めた事業として米飯事業を開始し、無菌米飯の製造を開始しています。

・企業理念：創業者の唱えた「農とは何ぞや」の経営理念を引継ぎ、農家の立場に立ち、農業の振興を計る事業を行う事を根本理念としています。

・事業所：稲作を行う農産部と無菌米飯工場を有しています。

・取引先及び商品形態：PB商品の製造を主に行うと共に、自社NB製品をスーパーなどの流通に販売しています。

・無菌米飯の受注増加に伴い交通の便の良い福島県相馬市に新工場建設予定（2026年操業開始）更なる増産を目指します。

## 沿革

1991年 有限会社ドリームズファーム設立（資本金300万円）  
1993年 ライスセンター完成  
1994年 資本金1000万円に増資  
1995年 精米プラント導入、資本金2000万円に増資  
1996年 無菌米飯工場完成、資本金3000万円に増資

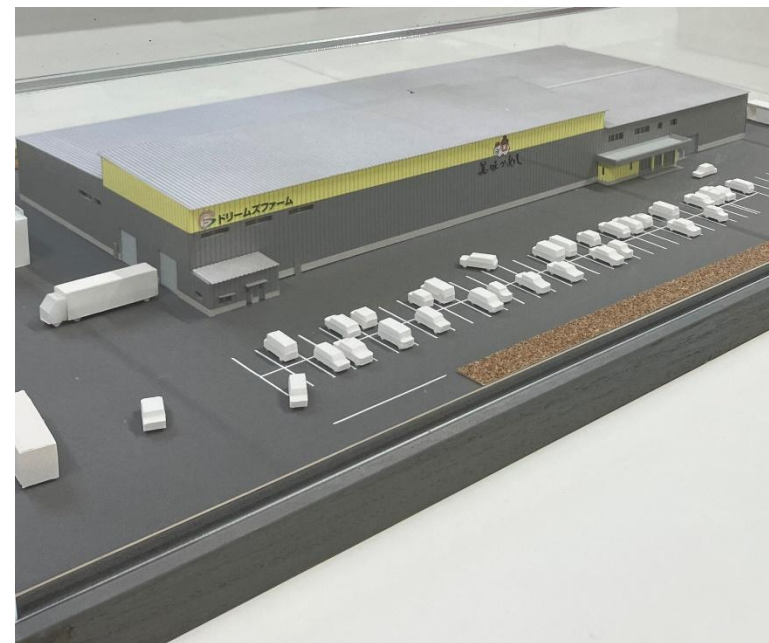
2015年 「山形県ベストアグリ賞」受賞  
2017年 ISO22000取得（Ver.2005）  
「農業の未来を作る女性活躍経営体（WAP100）」に認定  
2020年 無菌米飯工場を大規模改修  
2024年 福島県相馬市と新工場建設用地の契約、建設着手



私たち有限会社ドリームズファームは厳しくもあり雄大な大自然の中で最高に美味しいお米と、材料にこだわった最高に美味しい無菌包装米飯（パックご飯）を生産しています

自然の恵みを受けながら生活している私たちだからこそ次世代にこの大切な自然環境をつないでいけるようにしっかりと環境負荷低減活動を行っています

現在建設中の相馬新工場はこれまでの経験を活かし、最新の技術を導入し省エネ性能に優れた機械・設備を導入して製造にかかる環境への負荷をさらに低減させます。



相馬新工場 完成予想図



## 2. 対象範囲

全社、全活動、全従業員を対象としています。

### 2-1事業活動

農産物の生産・販売、米の販売業務、農作業の請負業、米飯事業（無菌米飯の製造）

### 2-2対象サイト

- ・本社工場
- ・農産事業部

## 3. 環境経営方針

当社は「当社に関わる全ての人達を幸福にします。」の経営理念のもとに、省エネ・CO<sub>2</sub>削減、廃棄物の再使用・再資源化などに取り組み大切な自然環境への負担を最大限に配慮しながら、顧客のニーズに対応してまいります。

私たちは、自らの事業活動や商品・サービスの提供など、全ての領域で地球環境への負荷を低減し、持続可能な循環型社会に貢献します。また、環境経営システムを定期的に見直し、継続的に改善していきます。

## 環境経営方針

当社は「当社に関わる全ての人達を幸福にします。」の経営理念のもとに、省エネ・CO<sub>2</sub>削減、廃棄物の再使用・再資源化などに取り組み大切な自然環境への負担を最大限に配慮しながら、顧客のニーズに対応してまいります。

私たちは、自らの事業活動や商品・サービスの提供など、全ての領域で地球環境への負荷を低減し、持続可能な循環型社会に貢献します。また、環境経営システムを定期的に見直し、継続的に改善していきます。

1. 全社で環境改善を継続的に行い、環境への負荷を低減させます。また、次の項目を重点課題として取り組みます。

- 【Ⅰ】 CO<sub>2</sub>排出量を削減します
- 【Ⅱ】 廃棄物排出量を削減します
- 【Ⅲ】 水使用量を削減します
- 【Ⅳ】 食品廃棄物排出量の削減及び再生利用実施率の増加

2. 環境負荷低減のため商品製造における製造ミス・クレーム品の低減に努めます

3. 環境関連法規制を遵守します。

2024年4月24日制定  
有限会社ドリームズファーム  
代表取締役 東海林 秀宣

# 4. 環境経営目標

## 1) 環境負荷基準年の設定

環境負荷基準年を2022年に設定します

- 二酸化炭素排出量は、2030年18%減（年2%削減）と設定
- 廃棄物排出量・総排水量・化学物質使用量の目標値は2030年8%減（年1%削減）と設定

## 2) 中期環境経営目標と2024年度 環境経営目標

●目標を設定する項目は環境経営方針より【Ⅰ】二酸化炭素排出量削減、【Ⅱ】廃棄物排出量削減、【Ⅲ】水使用量削減、【Ⅳ】食品廃棄物の発生抑制及び食品循環資源の再生利用等実施率の向上、と致します。なお、環境経営方針2項「環境負荷低減のため、製品実現プロセスにおける“失敗・クレームの低減”に努めます」については、ISO22000食品安全マネジメントシステムの活動で取り組んでいるため、EA21活動における目標設定は行っておりません。

- 【Ⅰ】に対する中期環境経営目標は、2024年は100万食あたり基準年比96%以下としました。
- 【Ⅱ】【Ⅲ】に対する中期環境経営目標は、2024年は基準年比98%以下としました。
- 【Ⅳ】に対する中期環境経営目標は、2024年は発生総量を基準年比98%以下、また再生利用実施率を26%以上としました。

### 3) 中期環境経営目標

2024年度の電力の排出係数は  
令和5年度東北電力排出係数0.477kg-CO<sub>2</sub>/kWh使用

		2022年 (基準年) 実績	2023年 実績	2024年 実績	2025年 目標
		製造数 30,531,405食	製造数 34,241,768食	製造数 36,857,842食	製造予定数 37,000,000食
① 二酸化炭素排出量	基準年比 (内) は100万食あたり	—	107.9% (96.2%)	115.0% (95.2%)	114.0% (94%)
	総量 (kg-CO <sub>2</sub> /年) (内) は100万食あたり	2,476,378 (81, 193)	2,672,538 (78, 144)	2,848,856 (77,289)	2,823,892 (76, 321)
② 産業廃棄物排出量	総量 (ton/年)	253.6	178.9	289.7	246.0
③ 水使用量	総量 (m <sup>3</sup> /年) (100万食あたり水使用量基準年比)	53,298	59,871 (100.2%)	62,019 (96.2%)	62160 (96%)
④ 食品廃棄物発生量 再生利用実施率	総量 (ton/年)	170.1 22%	186.4 41.2%	259.5 34.2%	164.9 28%



# 5. 環境経営計画

各環境負荷項目に対し、低減のための具体的な取組内容を定め活動しました。詳細は8-1項に記載します。



# 6. SDGsの取り組み

## 1) 安全衛生徹底の取り組み

ISO22000の継続運用

## 2) 省エネ設備の導入

高効率のボイラーへの更新

## 3) 中干期間延長によるJクレジットの創出（農産部）

温室効果ガス削減によりJクレジットを付与

SDGsに関する取り組みはこちら↓  
(<https://www.city.tsuruoka.lg.jp/shisei/sogokeikaku/dgs/seisaku0120211119.files/torikumi-117.pdf>)

### 食の安心・安全を守る企業として



・安全衛生徹底の取り組み ISO22000の継続運用



・品質管理体制の確立



### 環境にやさしい企業であり続けるために



自然環境にやさしい工場を目指し環境に配慮した取り組みを行っています

- ・全照明のLED化、高効率空調設備の採用など省エネ設備の導入を推進
- ・水使用量、廃棄物の削減目標を立て達成する取り組み
- ・環境経営システムを定期的に見直し継続的に改善する

### 働く人にやさしい企業であり続けるために



持続可能な成長できる企業であるために従業員の健康、教育、環境を整えます

- ・全従業員対象の健康診断
- ・受動喫煙対策
- ・社内研修、資格取得支援
- ・育児休暇、育児時短制度の導入
- ・各種表彰制度



### 農業でもSDGsに取り組む



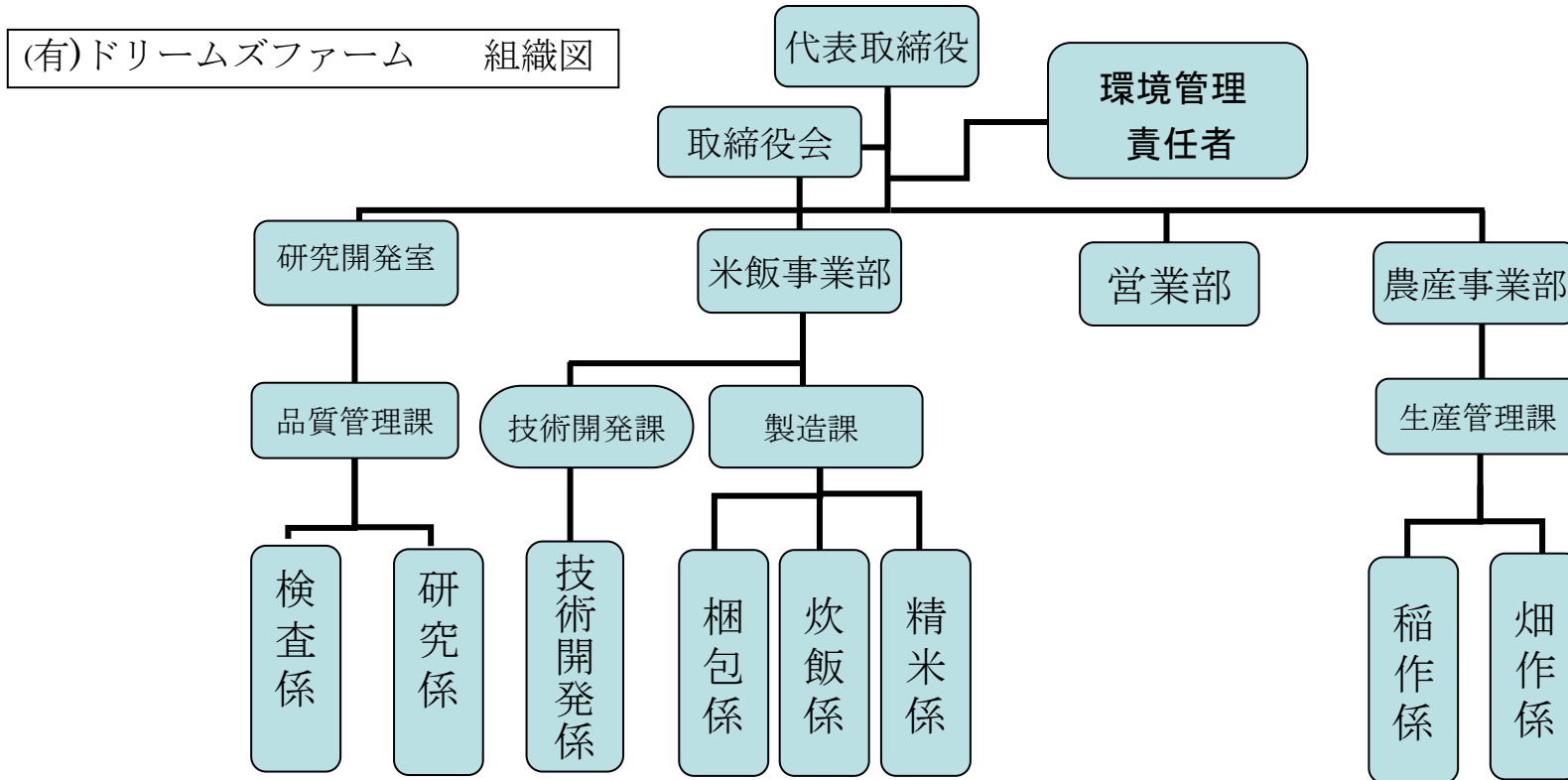
自然が相手の農業だからこそ

- ・地球への環境負荷の低い有機農業への取り組み
- ・中干期間の延長による温室効果ガス削減によるJクレジットの創出
- ・環境負荷低減事業活動に取り組み、みどり認定を取得



# 7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

- 1 取組内容は、8-1項結果表に併記致します。
- 2 実施体制



# 8 - 1 . 環境経営目標及び計画の実施・取組結果と評価

結果の判定及び目標達成状況は、以下の二段階にて表示いたします。

100%未満

...



達成又は良好


100%以上

...

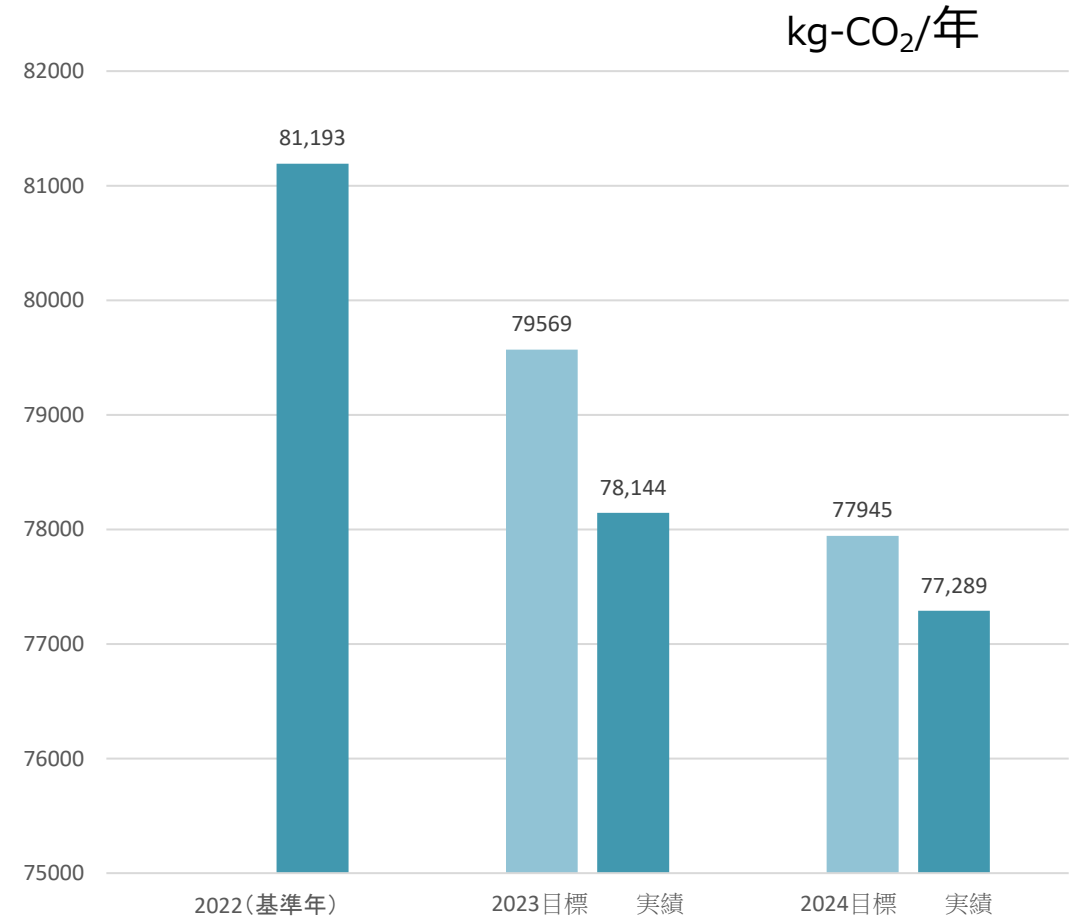


未達成

① 二酸化炭素排出量（方針 I）  
主担当部署：全社

Plan	★目標百万食あたり 77,945 kg-CO <sub>2</sub> /年
Do	★具体的な取組内容は次ページ以降に挙げる各環境負荷を低減することとする
Check	★実績：百万食あたり 77,289kg-CO <sub>2</sub> /年 ★目標比：99.1% 
評価	★生産の効率化で排出量削減できた。
Act	★来期の目標百万食あたり 76,321 kg-CO <sub>2</sub> /年 (基準年比94%以内)

二酸化炭素の排出量 百万食あたり



①-1 重油使用量（方針Ⅰ）  
主担当部署：全社

Plan

★目標： 百万食あたり20,773 ℓ

- ★ボイラーをできるだけ止めずに使用する☑
- ★ 効率的な生産を心掛ける☑

Check

★実績：百万食あたり 20,402 ℓ /年  
★目標比 98.2%



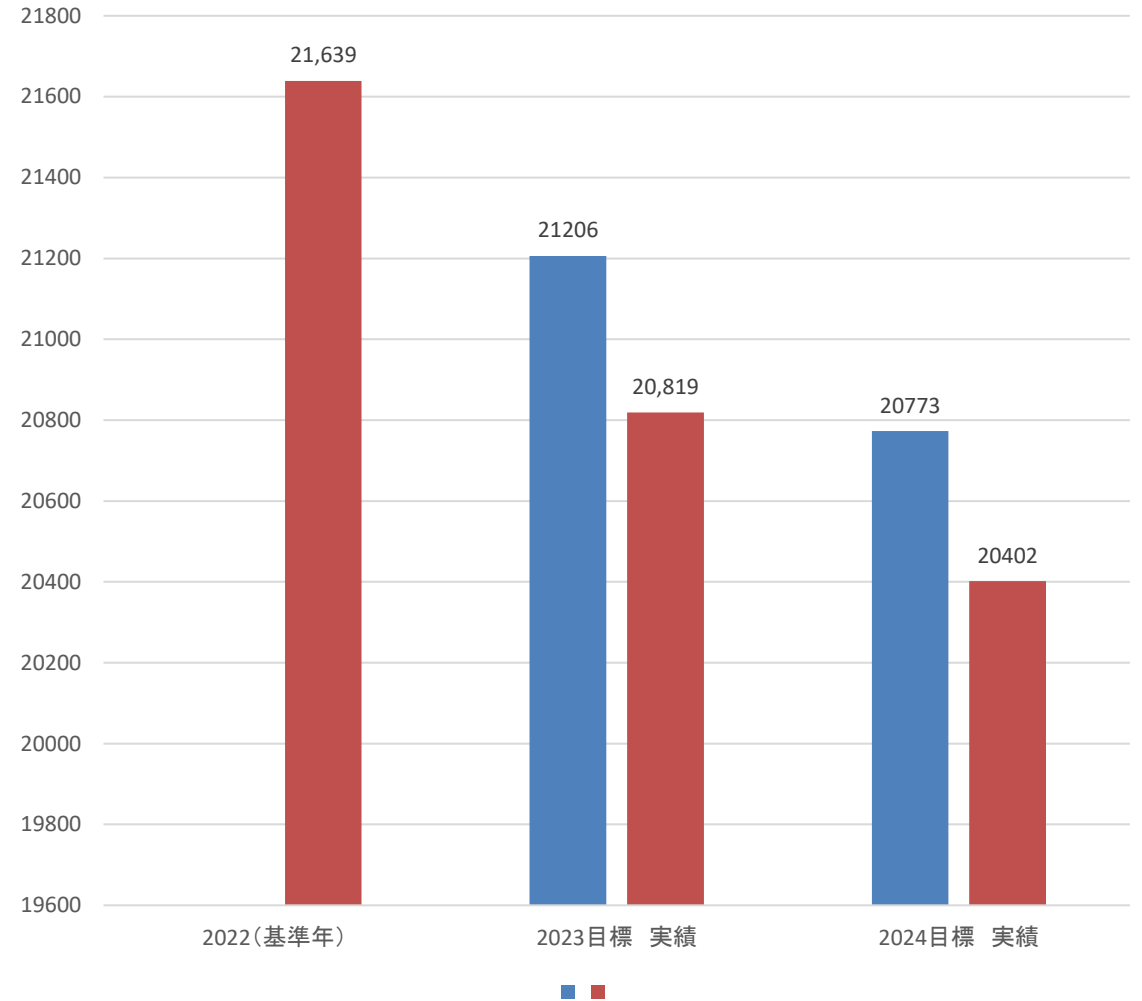
評価

★製造商品の切り替えを減らす工夫で省エネ化

Act

★来期の目標：100万食あたり20, 340 ℓ

A重油使用量 百万食あたり ℓ



①-2 電力使用量（方針Ⅰ）  
 主担当部署：全社

Plan

★目標：百万食あたり **40,044kWh/年**

Do

- ★エアコンの設定温度を守り、冷暖房電力を節約する
- ★不用時、不要場所の照明を消灯する
- ★機械更新時・増設時、高効率品を選定  \*更新無

Check

- ★百万食あたり **41,191kWh/年**
- ★百万食あたり目標比：**102.8%**



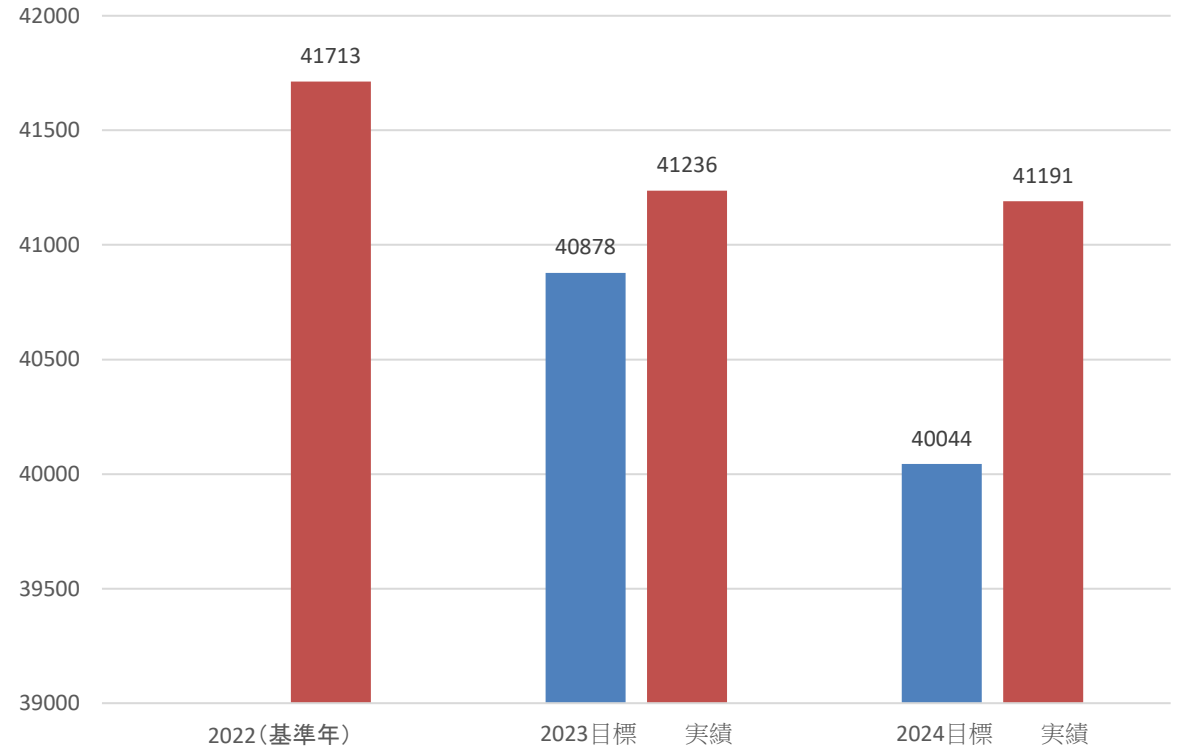
評価

★百万食あたり目標を達成できず。

Act

- ★来季の目標百万食あたり：39,210kWh/年
- ★省エネ診断を行い省エネできる場所を探す

電力の使用量 100万食あたり kWh/年





①-3 灯油使用量（方針Ⅰ）  
 主担当部署：全社

Plan

★目標：5,805 ℓ /年

- ★事務所内暖房ストーブの適正使用(不在時の暖房カット)を徹底する☑
- ★米糶の乾燥時できるだけドライストッカーで水分率を落としてから乾燥機に入れる（農産部）☑

Check

★実績：4,546 ℓ /年  
 ★目標比：78.3%



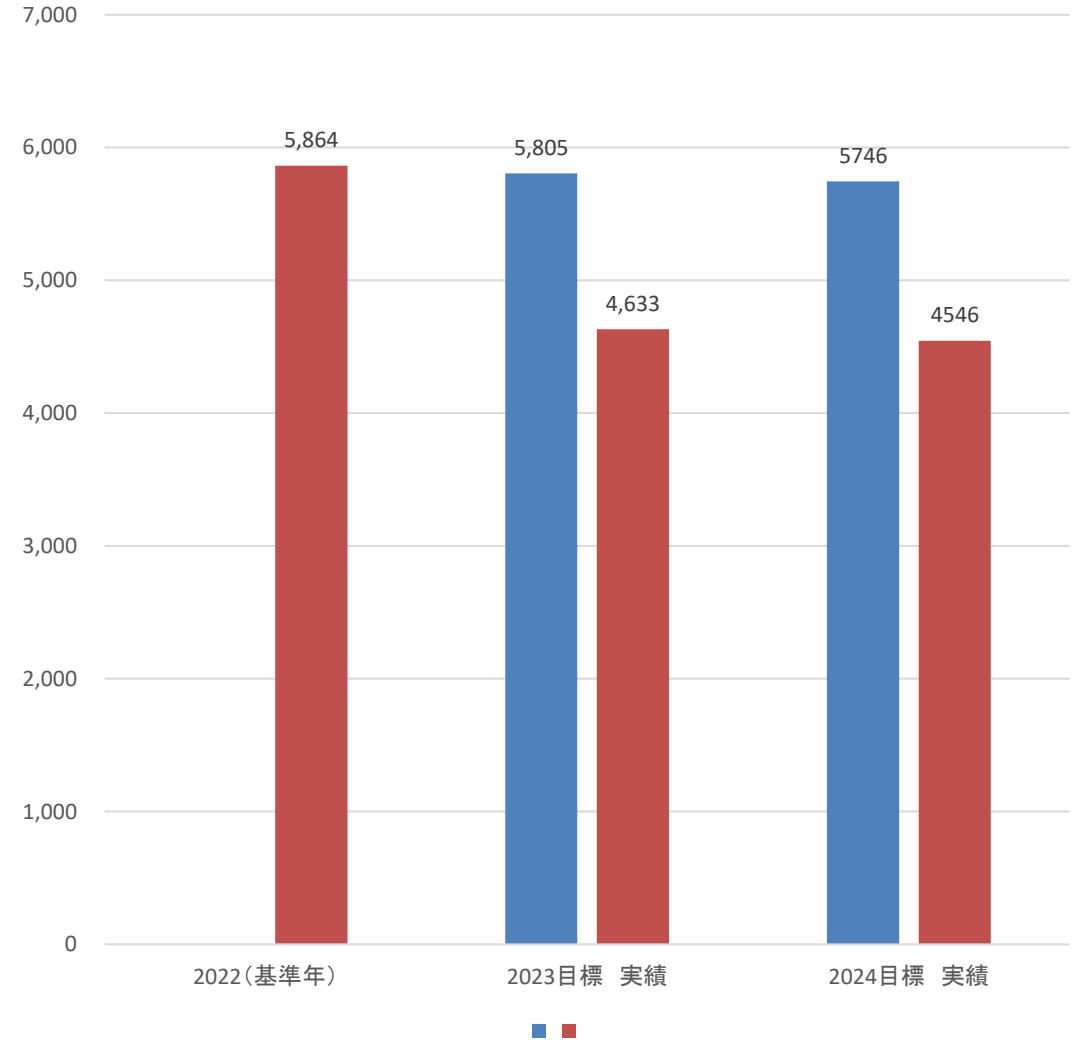
評価

- ★暖房の適正利用と乾燥機でも過度な利用はなく達成要因に
- ★基準年の使用量が多すぎた可能性、次の中期目標で見直す

Act

★来季の目標 5,746 ℓ /年

灯油使用量 ℓ



①-4 軽油使用量 (I)  
 主担当部署：本社、農産部

**Plan**


- ★目標：20,692 ℓ /年  
 基準年度から2%削減

**Do**

- ★「急発進・急停止・急加速・急減速」4急操作をしない☑
- ★「暖機運転」をしない☑
- ★農機に負荷のかかる作業をできるだけしない☑

**Check**

- ★実績：24,087 ℓ /年
- ★目標比：116.4%

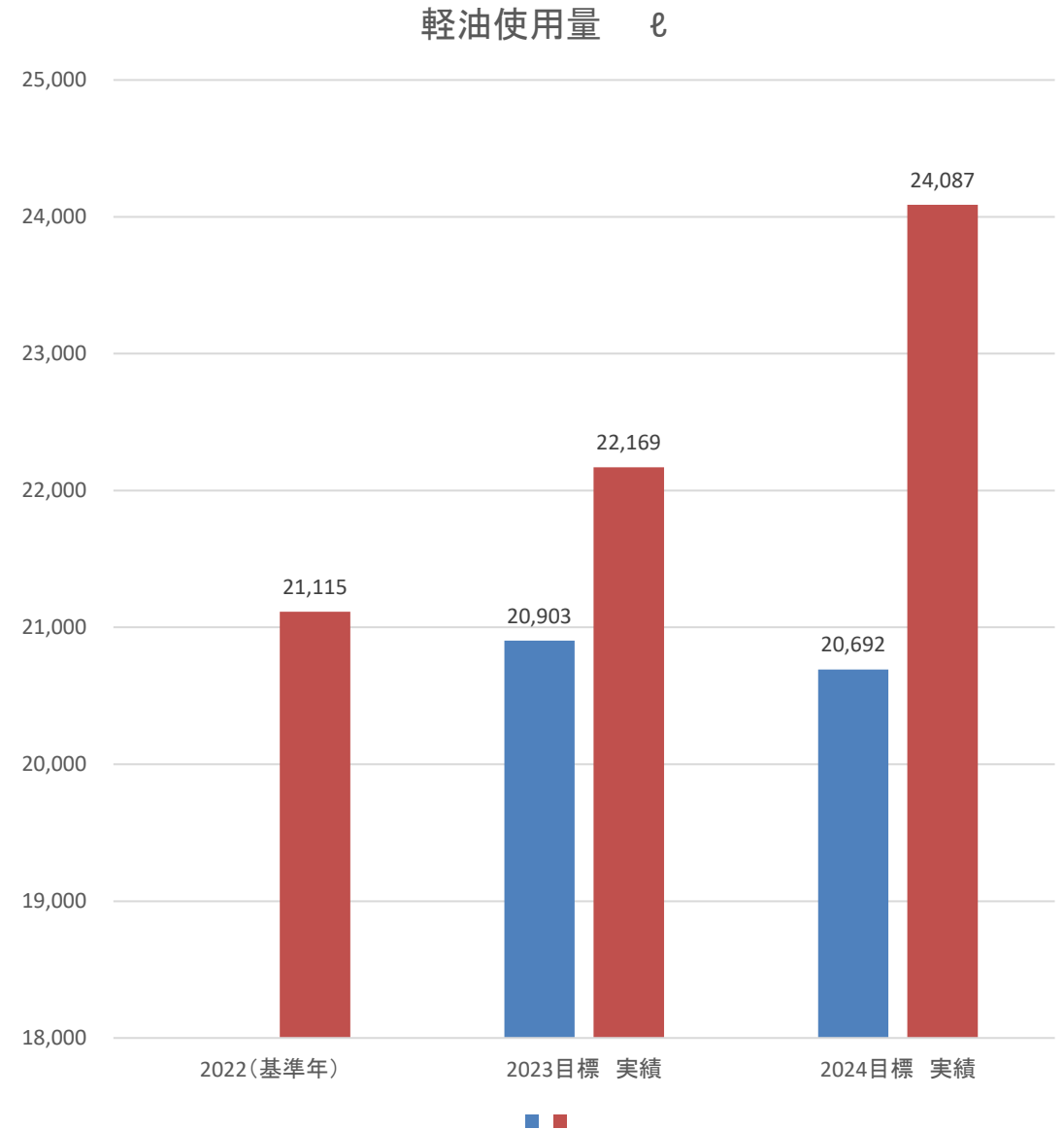


**評価**

- ★大型ダンプ自社便の配送回数増えた分は仕方ない
- ★農産部の農機も請負面積が増えている
- ★軽油も百万食あたり換算が妥当か検討する

**Act**

- ★来季の目標 20,481 ℓ /年



①-5 ガソリン使用量（I）  
 主担当部署：全社

**Plan** ★目標：8,225 ℓ /年

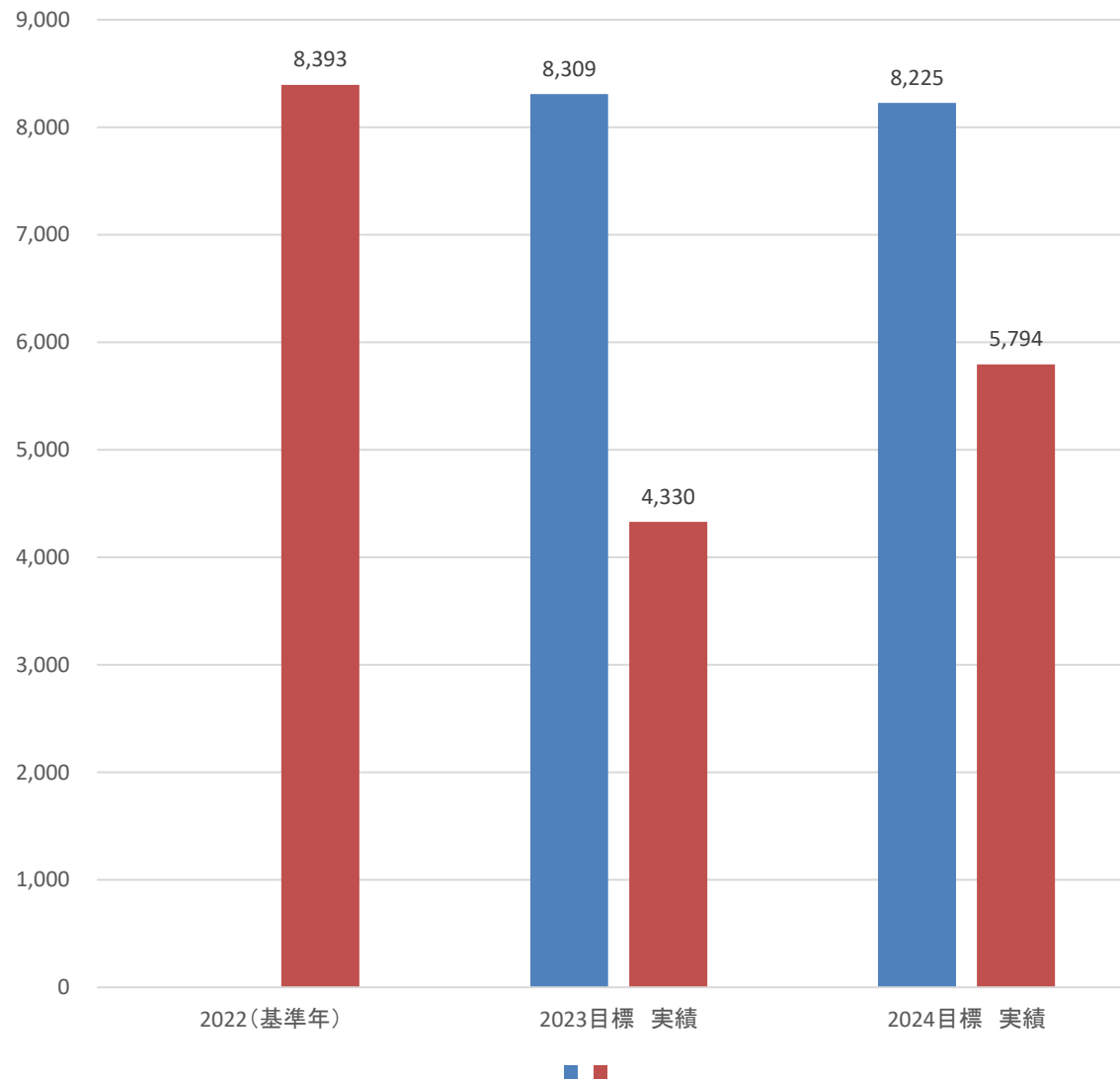
**Do** ★「急発進・急停止・急加速・急減速」4急操作をしない☑  
 ★「暖機運転」をしない☑  
 ★訪問の必要ない場合ZOOM活用する☑

**Check** ★実績：5,794 ℓ /年  
 ★目標比：70.4% 

**評価** ★2022基準年の使用量が多かった可能性。時期中期目標設定時に妥当な数字に訂正する

**Act** ★来季の目標 8,141 ℓ /年

ガソリン使用量 ℓ



②-1 一般廃棄物総排出量（方針Ⅱ）  
主担当部署：全社

Plan

★2024実績：372 k g

Do

- ◆紙ゴミ・雑誌は分別することにより可燃ゴミを減らし、再資源化する
- ◆購入機器カタログや取扱説明書類は可能な限り電子情報で入手する
- ◆段ボールの再資源化を促進する

Check

★2024年に初データが取れたので基準年とする

評価

Act

★2025年目標は368 k g（1%削減）



「ごみの分別で可燃ごみを減らし、再資源化する」

②-2 産業廃棄物総排出量(食品廃棄物を除く) (方針Ⅱ)  
 主担当部署：全社

Plan ★目標：94,805 k g /年

Do

- ★分別を徹底し、再資源化する
- ★木枠類の再資源化を促進する
- ★パレット類は原則、返却する
- ★リサイクルの推進（事務所）

Check

- ★実績：66,885 k g
- ★結果：目標比71.7%



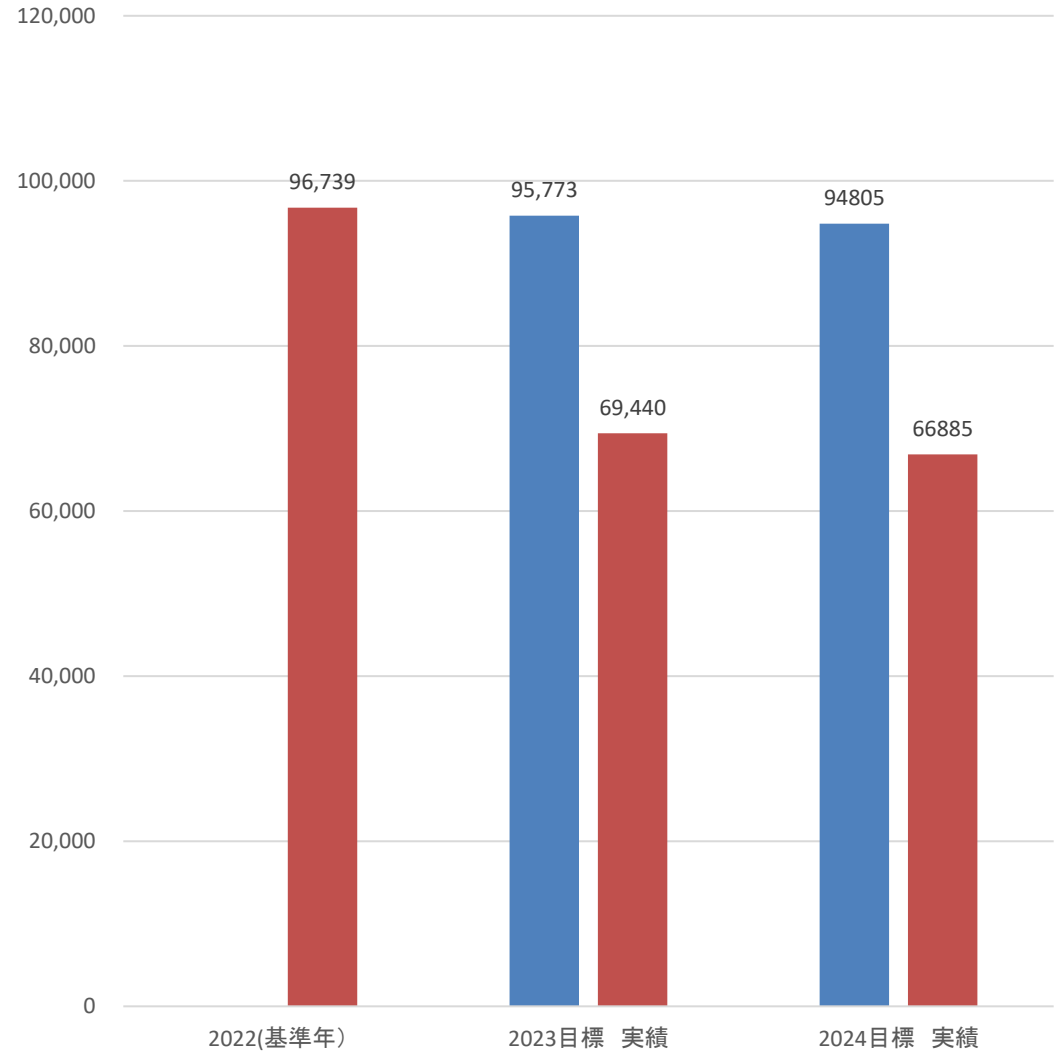
評価

- ★廃プラの量が減った
- ★原料購入先にフレコン返却するようになった

Act

★来期の目標：93,837 k g

産業廃棄物の排出量 kg



### ③ 水使用量（方針Ⅲ）

主担当部署：全社

Plan

★目標：百万食あたり 1,712m<sup>3</sup>

Do

★工場・事務所内節水の啓蒙

Check

★実績：百万食あたり1,682m<sup>3</sup>  
（目標比98.2%）



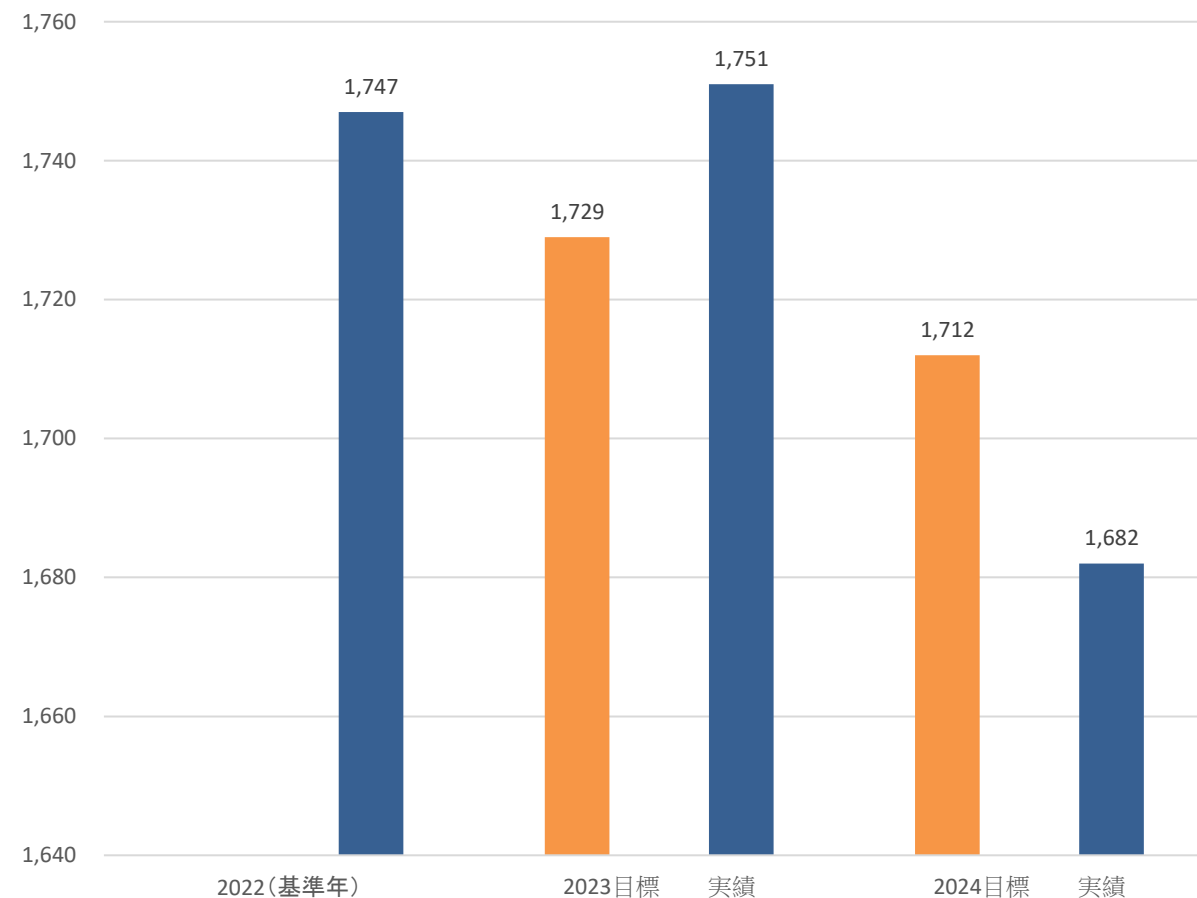
評価

★ 達成

Act

★来期目標：百万食あたり1,694m<sup>3</sup>

水使用量（百万食あたり）m<sup>3</sup>





④ 食品廃棄物排出量と再生利用量（方針Ⅱ）  
担当部署：本社

Plan

- ★廃棄物排出量 5034kg
- ★再生利用率26%（基準年から4%増）

Do

- ★ミスを減らす
- ★処理業者と密な連携をとる

Check

- ★排出実績：7040kg
- ★再生利用実績：再生利用率34.3%



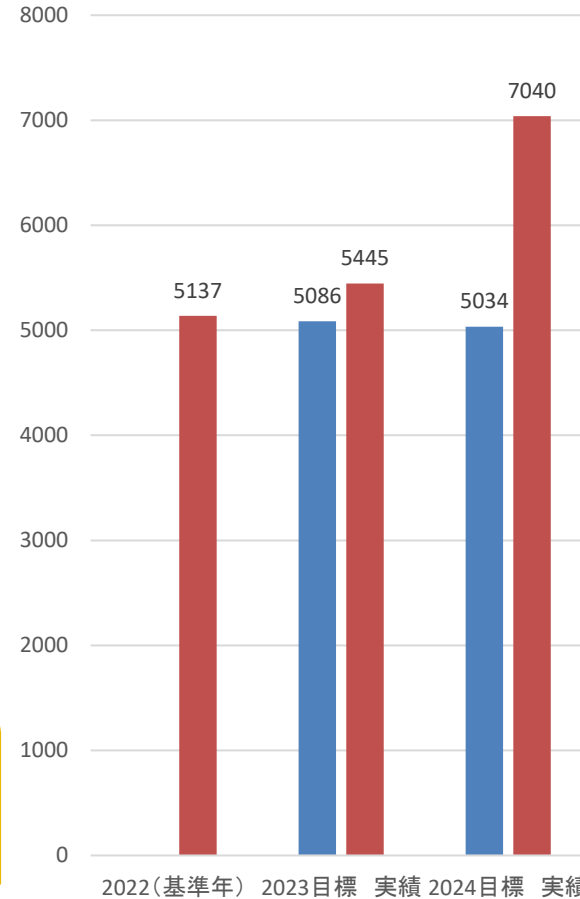
評価

★排出量自体は増加、リサイクル率は達成したが、前年よりリサイクル率低下

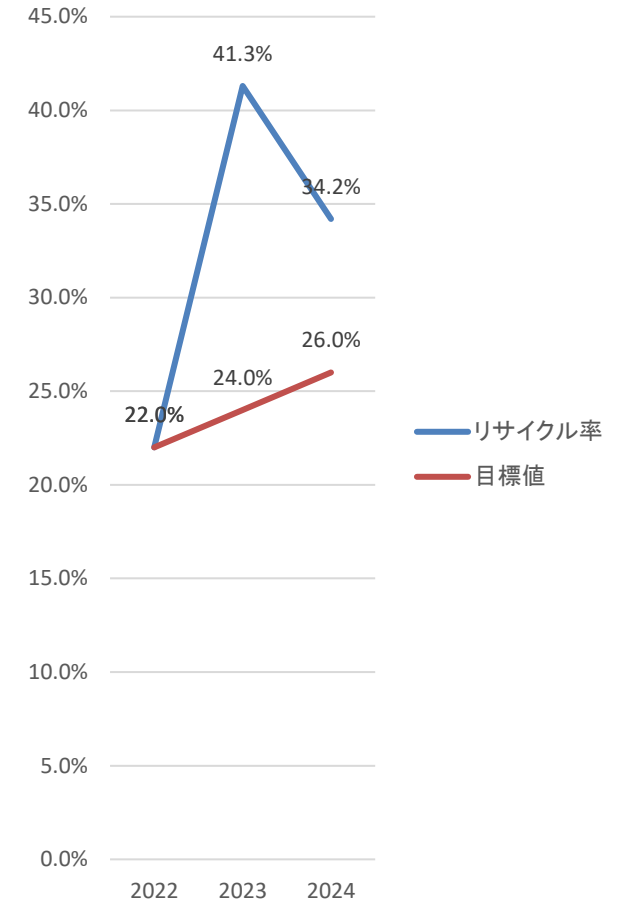
Act

- ★来期排出目標：4983kg
- ★来期再生利用目標：再生利用率28.0%

食品廃棄物の排出量(百万食あたり) kg



食品廃棄物リサイクル率



⑦ 年間教育・訓練（方針 5）  
主担当部署：全社

Plan

★目標：年間合計1回以上

Do

★ISO勉強会、リーダー研修、5S勉強会  
★農産部では稲作の高温対策の勉強会に全員参加

Check

★勉強会参加率100%



評価

★今現在の課題への助けとなるような教育・訓練を行っていく

Act

★来期の目標：年間合計1回以上

⑧ 周辺住民への影響（方針 7）  
担当部署：総務

Plan

★目標：苦情件数ゼロ件

Do

★本社周辺の環境美化活動、周辺パトロール  
★農産部はほ場管理の徹底

Check

★苦情件数：ゼロ件



評価

★近隣住民からの苦情無し。引き続き定期点検やパトロールを行い、苦情の種を未然に防ぐことができるように努める。

Act

★来期の目標：苦情件数ゼロ件

## 8 - 2 . 環境上の緊急事態対応訓練

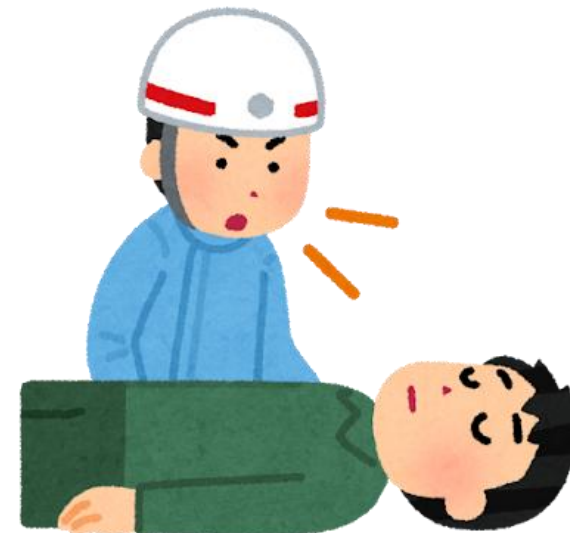
### 教育訓練の記録

実施日 令和6年10月 7日 場所 本社会議室

実施内容 救急救命訓練と止血の講習

消防署より2名講師に来ていただき、倒れている人の発生時、無呼吸、心肺停止の際の心肺蘇生の講習。胸骨圧迫と人工呼吸、AEDの使い方と救急への連絡の仕方。また、四肢の出血があった際の止血の仕方も教わる。

参加者：炊飯 2名、梱包 2名、品質管理 3名、事務所 3名



## 8-3. 次年度の目標及び計画

		2024年 実績	2025年
① 二酸化炭素排出量 (百万食あたり)	総量 (kg-CO <sub>2</sub> /年)	77289	<b>76,321</b>
② 廃棄物排出量	総量 (ton/年) ※一般廃棄物+産業廃棄物	289.7	<b>245.6</b>
③ 水使用量 (百万食あたり)	総量 (m <sup>3</sup> /年)	1,682	<b>1,694</b>
④ 食品廃棄物排出量 (百万食あたり)	総量 (kg/年)	7,040	<b>4,983</b>
⑤ 従業員に向けた 環境教育		—	1回



二酸化炭素排出量 各項目目標  
(kg-CO<sub>2</sub>/年)

①-1 A重油 百万食あたり	55,121
①-2 電気 百万食あたり	18,703
①-3 灯油	14,163
①-4 軽油	52,841
①-5 ガソリン	18,887

## 8 - 3 . 次年度の目標及び計画

### ② 廃棄物排出量

- 1) 副産物の有効活用:廃棄物として処理される米ぬかや碎米を資源として利用する
- 2) 分別により資源と廃棄物を厳密に分ける

### ③ 水使用量

- 1) 工場内、営業試験における節水の啓蒙

### ④ 食品廃棄物のリサイクル率

- 1) リサイクル化が難しいシール後の製品のロスを減らす

### ⑤ 当社製品でのCO<sub>2</sub>削減、省エネの取組み

- 1) 新規設備に関し装置設計の際、省エネを推進する
- 2) 設備の点検・改修時は省エネを検討する

# 9 - 1 . 環境関連法規などの遵守状況及び評価の結果

当社に適用される環境関連法規は下表に示す通りです。

No	法規、条例（略称）	規制事項など	No	法規、条例（略称）	規制事項など
1	労働安全衛生法		8	食品リサイクル法	リサイクル率の報告義務
2	大気汚染防止法	煙突 ばい煙			
3	ボイラー及び圧力容器安全規則	自主点検			
4	廃棄物処理法	廃プラ、廃油、汚泥など	<p><b>9-1 令和7年1月20日付けで遵守状況を確認したところ問題はありませんでした。</b></p> <p><b>環境面での訴訟、行政処分は創業以来一度もありません。また、外部からの環境に関する苦情は過去3年間ありません。</b></p>		
	産業廃棄物の適正な処理に関する条例	産業廃棄物			
	廃棄物の処理及び清掃に関する条例	一般廃棄物			
6	消防法	危険物貯蔵			
7	農薬取締法	保管場所、使用履歴			



# 10. 代表者による全体の評価と見直し指示

## 経営における課題とチャンス の明確化

## 見直しと指示

	課題（事業上の弱み、問題点）	チャンス（事業上の強み、有利な点）
事業者の外部に起因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年産米の価格高騰により無菌米飯の原材料費も高騰</li> <li>・令和の米騒動以降、受注量が増加</li> <li>・エネルギー費用の高騰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世帯人数の減少、高齢化によりパックご飯の需要が伸びている</li> <li>・社会の需要に対して業界全体で供給が追い付いていない。</li> </ul>
事業者の内部に起因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務効率化などDXへの対応</li> <li>・新商品開発力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堅実な企業風土</li> <li>・安定した財務内容</li> <li>・若手社員の成長</li> </ul>

上がった原材料費を売価に反映させることが急務なのと、原材料費の高騰・エネルギー費の高騰を念頭にコスト管理と効率化を徹底的に強化すること。

また、昨年夏からの受注量の増加はまだまだ続いている。顧客の要請に何とかして応えていきたい。

省エネへの取り組みは今の取り組みを洗い出して新工場に落とし込んでいく。

# 10. 代表者による全体の評価と見直し指示



2024年度の省エネおよびエコアクション21活動について、全体として高い目標に対する堅実な成果を確認しました。特に省エネに関しては全目標達成には至りませんでした。計画的な取り組みの継続により着実な進展が見られました。昨今の電力代・燃料費の高騰の折非常に大切な取り組みとなっています。

現在、我が社は6年産米の高騰による原料費の増加、そして「令和の米騒動」以降の需要増加に伴う供給不足という課題に直面しています。これに対応するため、休日稼働を含む生産体制を強化していますが、2025年はこうした努力を飛躍に転じる重要な年になると考えています。さらに、2026年には福島県相馬市の新工場が操業を開始し、新たな成長の基盤を築いていきます。

現在進めている社内のデジタル化は、業務効率化や情報共有の促進といった大きな効果が期待されています。デジタル化により手作業のミスを減らし、データの即時活用が可能になることで、意思決定の迅速化や労働負担の軽減といった有用性を実現できます。また、この取り組みの成果として、紙資源の使用量削減にもつながります。社員の皆様には、こうした変革の流れに積極的に参加していただきたいと思います。

また、SDGsが社会から求められる今、我々のエコアクション21活動への理解と協力はこれまで以上に重要です。持続可能な未来に向けた取り組みの一環として、これらの活動を全社で共有し、さらに推進していきましょう。

2025年1月20日

東海林 秀宣

エアアクション21

# 環境経営レポート

有限会社 ドリームズファーム

